



光本 一也 議員

Q (仮)萩原城之堀線の新設整備と東部方面地域のまちづくり、町の考えは

A 町長

町にとって有益であると認識している。今後、財源確保を含めて研究していきたい。

【Q1】 県道矢野安浦線熊野バイパス(出来庭・萩原工区)の進捗状況と今後の計画は。

【A1】 今年度、測量と詳細設計を進めており、年度内に地元説明会を行うと聞いている。今後は土地所有者への境界確認、土地の面積測量や建物等の物件調査、補償の説明、用地取得、工事着手へと進める。

【Q2】 熊野町都市計画マスタープランにおける(仮)萩原城之堀線の位置づけは。

【A2】 県道矢野安浦線バイパスから城之堀・萩原方面へのアクセス機能と共に、町内幹線道路網の一部に位置づけている。バイパス結節点から阿戸別れ交差点までの町道萩原線に続き、萩原から城之堀方面の

南北方向の軸として位置づけている。

【Q3】 東部地域(城之堀・萩原・初神・新宮)のまちづくりを推進していくには、都市計画マスタープランに位置づけている(仮)萩原城之堀線の新設整備と城之堀5・6・10丁目、萩原8丁目の住居共生地区の早期整備が必要と考えるが、町の考えは。

【A3】 新設の道路計画では、用地取得への協力、関係住民の事業への理解と協力が不可欠である。また、事業実施には多大な予算と長い期間を要する。都市計画マスタープランの高度化版となる立地適正化計画において研究する。

Q 筆の里工房周辺整備事業、当初の計画から町民向けの施設に方向転換したのか

A 町長

熊野の魅力を高め、国内外からの観光客を呼び込む当初からの方向性は変えていない。



▲整備予定地から筆の里工房を臨む

【Q1】 事業目的、全体事業費の額は。

【A1】 町民が憩い、集える、町民のための場所、持続可能なまちづくりの拠点として整備。事業費は13億6千万円。

【Q2】 集客目標人数は基本実施設計業務を行う中で考えるとのことだが、設計前に設定し、プロポーザルで提案を求めべきではないか。

【A2】 利潤を追求する商業施設でないため、先に目標人数を示すことは考えていない。

【Q3】 完成までのスケジュールは。

【A3】 本年10月から令和5年9月にかけて体験交流施設の基本実施設計、令和6年から体験交流

施設を整備、その後調整池、駐車場、北側の公園を整備し、令和10年度完成の予定。

【Q4】 オープン後の運営について、民間の資金とノウハウを活用する「Park+PFI」の手法を取り入れてはどうか。

【A4】 公園内の体験交流施設内の飲食機能部分に導入を検討する。

【Q5】 文化芸術アドバイザの役割と構成員は。

【A5】 本町の文化芸術のまちづくり応援大使で画家の野村重存氏のほか、芸術系大学の教授、広島県観光連盟の方など5名程度を考えている。

町内社会教育施設を点検

文教委員会

昨年12月に引き続き6月17日に、3つの社会教育施設の視察をしました。

町民会館(熊野中央防災交流センター)、熊野東防災交流センター、熊野西防災交流センターを調査点検しました。各施設とも町民の安心安全のため、適切に維持管理を行っていくよう要望しました。

(熊野町図書館) 【修繕前】



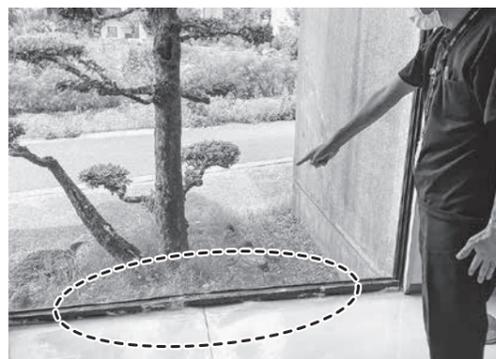
▲屋外タイル剥離のため、早期修繕を要望。

【修繕後】



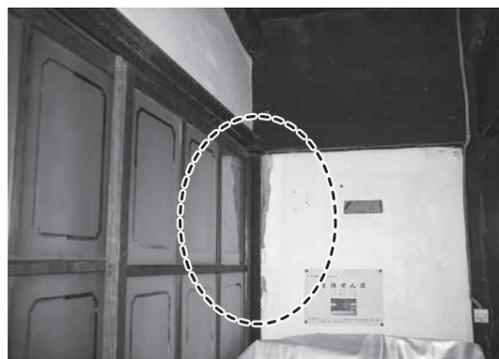
▲令和4年3月に修繕工事完了。

(熊野町民会館)



▲雨漏りによる床材劣化のため早期防水工事を要望。(ふでりんホール楽屋入口通路付近)

(熊野町郷土館)



▲雨漏りによる内壁の剥離を確認し対策を要望。

あとがき

3月、6月、9月、12月の定例議会後に発行する『くまの議会だより』。予算、条例等の議案審議、一般質問の内容などを掲載しています。

若い方にも読んでいただけるよう、編集にあたっては写真やイラスト等でわかりやすく親しみやすい紙面づくりを目指していますが、ページ数の制約や各議員の思い入れなどから文字が多くなりがちで、堅苦しい内容になっていると反省しきりです。詳しい内容はインターネット中継(録画)や会議録でも確認できます。ご意見をお寄せください。

光本 一也

次の定例会は
9月13日
(火曜日)
開会を予定しています

議会だより題字
小田原正龍さん